

従業員とともに

当社は、従業員の健康と安全を確保することが最も重要であると認識しています。そのため、職場に潜むリスク対策を進め、労働安全の確保、衛生活動の充実、防災訓練の確実な実施に努めています。



労働安全活動

2016年度は、「安全風土の醸成による無災害の達成」をスローガンに掲げ、リスクアセスメント活動、各種安全衛生巡視、社内安全衛生教育、KY（危険予知）活動、安全意識の向上活動、3S（整理・整頓・清掃）活動に取り組みました。

「3S活動」では、各部署で積極的に取り組んだ成果として、場内の整理・整頓が徹底されました。

また、化学物質のリスクアセスメントへの取り組みも計画通り実施できました。安全意識の向上に関する活動では、職場のコミュニケーション力向上、現場中堅社員への安全教育、法令順守に関する教育を実施した結果、作業者の安全意識が向上し、当社の無災害につながりました。



製造部のKY活動

衛生活動

2016年度の衛生教育は、管理監督者を対象とした「メンタルヘルス教育」、健診有所見率低減を目的とした「運動教室」を行いました。今後も従業員の心と体の健康の維持、増進に取り組んでいきます。

また、作業環境測定を年2回定期的に実施しています。粉じん測定については、集塵機への集塵ダクト・吸引フードの増設、ミスト噴霧による湿潤化などの対策を講じ、測定箇所全てを管理区分Ⅰに低減することができました。ニッケル化合物測定についても、管理区分Ⅰに向け、メタルタップ場でのエアーカーテン設置による飛散防止等、引き続き設備の改善を進めていきます。



運動教室の様子

防災活動

2016年度は、10月に総合防災訓練、3月に津波避難訓練を全社で実施しました。総合防災訓練では、大規模地震が発生した際に考えられる二次災害を想定し、各部署で対応訓練を行いました。訓練で挙げられた課題は自部署の危機マニュアルへ反映することで、対応しています。また、机上でさまざまな想定に基づいて対応を考える災害図上訓練を8回、普通救命講習会を1回実施しました。

さらに、消防署の協力を得て、会社だけではなく社宅の防災訓練も実施しました。社宅ベランダからの救出訓練や消火器の使い方指導、起震車の体験なども行い、社員の家族の方にも多く参加いただきました。

今後も社員の防災意識向上を目的とした教育訓練を行っていきます。



社宅の防災訓練

職場の提案制度

個人がヒヤリ、ハッとしたことや気がかりに思うことがあれば、「ヒヤリ・ハット、気がかり摘出カード」にその時の状況、それに対する個人の対策や意見を記入し、安全衛生管理室へ提出しています。そのカードに安全衛生管理室がコメントを追加し、対策を実施するように指導する活動を行っています。

また、職場の安全風土の醸成のため、中央労働災害防止協会の安全行動調査を実施し、その診断結果に基づく個人や小グループとしての弱点克服活動に取り組みました。小グループでの活動ではコミュニケーションに関する弱点が多かったことから、コミュニケーションの取り方についての資料を作成し、配布・支援を行いました。

個人および小グループでの弱点克服活動を通じて、全社的な安全風土の醸成につなげられるよう引き続き活動していきます。

VOICE 安全風土醸成のためのコミュニケーションの取り組み



上席執行役員 安全衛生管理室長
泉本 忍

2014年度から2015年度にかけて労働災害・事故が3件続けて発生しました。いずれも部署間の意思疎通を十分に行う必要性があると判断されたため、月1回作業者と管理監督者を対象に話し合いの場を設けました。部署内でのコミュニケーションの改善は、他部署へ水平展開することで、活動が活発になりました。

さらに、2016年には課内における意思疎通の改善として、職場会議での意見交換を促進する取り組み（年代別グループ討議）を行った結果、さまざまな意見・要望が出されるようになり、職場の雰囲気により一層改善されたと感じています。これからも、コミュニケーション推進活動に取り組んでいきます。

地域社会とのコミュニケーション

地域社会とのつながりを大切にし、清掃活動を実施するとともに、地域の諸団体への協賛や地域イベントへの参加など地域活性化に努めています。また、展示会や交流会にも積極的に参加し、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図っています。



写真提供：八戸市観光課様

工場周辺や地域の清掃活動

当社は、地域環境美化と社会貢献を目的に、当社工場周辺道路沿いの清掃活動を継続的にを行っています。

2016年10月に実施した清掃活動は、当社の全部署、関係会社、ならびに協力会社の協力のもと、参加者全員が本活動にあたっての注意事項を守り、無事に終了することができました。

また、当社は原材料や製品の運搬の際に臨港地区の



地域の清掃活動

公道を使用しているため、協力会社所有の道路清掃専用車両を用いて、路面のクリーン化に努めています。2016年度は、フェロニッケルスラグ製品を納入の際に通行している八戸市是川地区で、2016年4月、11月、2017年3月に清掃活動を行いました。今後も工場周辺や地域の清掃活動を継続していきます。



専用車両による道路清掃

ニッケル4社 環境・安全交流会の開催

当社は、他の国内ニッケル企業3社とともに、各社の環境・安全に関わる問題点について情報共有を行う目的で、2009年に「環境・安全交流会」を発足させました。

これまで、各社の環境対策、ニッケルに関する法規制の動向、労働安全衛生の取り組みなどについて、各社で事例を発表し、意見交換を行ってきました。

2016年度に行われた交流会は、当社で開催し、東日本大震災以降に津波対策として進めてきた、新しい避難場所や避難通路、防災資機材の整備などの状況を実際に見ていただきました。また、今回は新たに当社から「技術伝承教育」についての取り組みを共有し、議論しました。

この交流会に参加することによって、ニッケル製造業に共通する環境・安全を含む課題の解決に向け、各社の動向や取り組み事例について情報共有ができることから、非常に有意義なコミュニケーションの場となっています。



交流会の様子

展示会への参加

【第9回青森土木フォーラム】

2016年10月22日～11月6日に弘前市、つがる市にて「第9回青森土木フォーラム」が開催され、当社は重量コンクリート用細骨材と路盤材の施工実績に関するポスターを出展し、優秀賞を受賞しました。当フォーラムは、青森県民の土木工学・土木事業の理解を深めることを目的とし、八戸工業大学を中心に産学官が連携した展示会です。

【フェロニッケルスラグ骨材を用いたコンクリートの設計施工指針に関する講習会】

2016年11月11日に八戸工業大学にて「フェロニッケルスラグ骨材を用いたコンクリートの設計施工指針に

関する講習会」が開催されました。当講習会は、JIS A 5011-2の改正に合わせた「フェロニッケルスラグ骨材を用いたコンクリートの設計施工指針」の作成に伴い、工事の施工業者等へ有益な情報を提供することを目的に、日本鉱業協会主催で行われました。

【第2回東北石炭灰有効利用セミナー】

2017年2月2日に仙台市にて、「第2回東北石炭灰有効利用セミナー」が開催され、当社はスラグ製品の品質と施工事例について講演を行いました。当セミナーは、スラグの有効利用に関する諸技術の普及および情報発信を目的とし、資源循環コンソーシアム主催で行われました。

地域社会への貢献

当社は、地域社会との共生を目指し、地域の諸団体への寄付や協賛を行っています。2016年度もこれまでに引き続き、さまざまな森づくり・人づくり活動の活性化を進めている「青森県緑化推進委員会」への寄付をはじめ、「八戸市を緑にする会」、「八戸年中行事協賛会」に協賛し、地域の活性化に貢献しました。

また、八戸市では、多くの地域イベント・伝統行事が行われています。特に、東北有数の華やかさを誇る「八戸三社大祭」および伝統芸能である「八戸えんぶり」は八戸地域を代表する一大イベントであり、当社の従業員も積極的に参加し、お祭りを盛り上げています。

●三社大祭、えんぶり <https://hachinohe-kanko.com/10stories-top>



写真提供：八戸市観光課様



写真提供：八戸工場大学様

八戸工場大学アートプロジェクトへの参加

「八戸工場大学」は八戸市が主催し、市民・企業・アーティストが連携して運営するプロジェクトで、2013年にスタートしました。八戸市の「工場」を景観・まちづくり・観光・文化・産業などの視点から多角的にとらえ、アートと組み合わせることで新たな気付きをもたらし、地域の工場の魅力や価値を再発見し、発信していく試みです。

当社では、2017年1月に開催されたアートイベント「虹色の狼煙（のろし）」に協力し、フェロニッケルスラグから発生する水蒸気とロータリーキルンの煙突から出る煙を、舞台用照明とレーザーの光でさまざまな色に照らし

ました。実際に稼働中の工場がアートイベントと連携するのは、全国的に見ても珍しい取り組みです。当社製造部ではイベントの時間に合わせてスラグの出滓等、操業のタイミングを調整しました。

イベントでは、八戸市内の工場各社の歴史、2017年5月に創立60周年を迎えることとなる当社八戸製造所のこれまでの歩み、出滓されたばかりの真っ赤なスラグが水蒸気に反射することで八戸の夜空がオレンジ色に染まること、そして各社の環境対策などについて工場を擬人化し、八戸地方の方言（南部弁）を用いたメッセージ形式で、対岸のイベント会場から当社製品倉庫の外壁へ向けて投影しました。メッセージは南部弁語りの第一人者によるナレーションを加えたことによって、より分かりや

すく、温かみのあるものになりました。イベント当日は凍えるような真冬日にもかかわらず、500人を超える方が来場され、いつもより多く出ている水蒸気に驚き、光と水蒸気が織りなす一夜限りの「工場×アート」を楽しんでいただきました。

また、2月2日から28日までの約1カ月間、八戸ポータルミュージアムはっちで「虹色の狼煙写真展」としてイベントの写真パネルの展示を行いました。「八戸えんぶり」の期間とも重なり、多くの市民・観光客の方々に鑑賞していただきました。

「虹色の狼煙」イベント前日には、前年度に引き続き当社のフェロニッケルとスラグの製造プロセスについて理解を深める講座「太平洋金属ってどんな工場？」を八戸市美術館会議室で開催するなど、八戸工場大学プロジェクトへの継続的な支援・協力を行なっています。

（「虹色の狼煙」イベントの様子はYouTubeなどから動画を視聴することができます。）
「八戸工場大学」の公式サイト <https://www.8kojyodaigaku.com/>



「虹色の狼煙」パンフレット